秋田高校同窓会だより Vol.105

AKITA HIGH SCHOOL alumni association news

学食復活プロジェクト

6月23日に令和元年度総会

●あの頃の思い出 「マネジャーから見た甲子園」

エッセイ ◎佐々木 毅氏

交差点 ◎湯田　淳氏　ズームアップ ◎苫米地　圭氏、岡部　大氏

大にぎわい

4月15日、秋田高の学食が10年ぶりに復活した。同窓会の郷土創生特別委員会が推し進めてきた「学食復活プロジェクト」が結実した形。研修会館1階の食堂は久しぶりに活況を呈した＝広報委員会の森義弘委員（昭和48卒）撮影

秋田県立秋田高等学校　●学校創立　明治6年（1873年）9月1日
●卒業生総数／38,645人（旧制中学7,080人、新制高校31,565人）　●在籍生徒数／822人（男子447人、女子375人）
●同窓会員数／39,116人　●物故者／9,680人　●現会員数／29,320人　［平成31年4月1日現在］
●ホームページ　http://akitahs-doso.jp　●E-mail　aki-doso@cna.ne.jp

10年ぶりに学食復活

～母校愛が結実した27種類のメニュー～

平成28年8月8日の夜、郷土創生特別委員会で学食復活の機運が湧き上がりました。あれから2年8カ月。「文武両道のその前に、飯。」をスローガンにプロジェクトを推進した結果、とうとう学食復活が実現しました。21年に学食が途絶えてから10年ぶりに、研修会館1階の食堂に活気が戻ったのです。

（郷土創生特別委員会・佐藤裕之）

この2年8カ月の間、実行部隊を中心に、課題の議論、調査を重ねてきました。特に29年8月に実施したアンケートの結果は、あらためて学食復活の必要性、そして緊急性を認識させるものでした（「同窓会だより」102号で既報）。

30年春には募金活動を開始。当初目標500万円に対して600万円を超える募金が寄せられ、その資金を活用して、本年3月から厨房改修など行い、4月15日の復活オープンにこぎつけました。

準備したメニューは、懐かしのカツ飯、天飯を筆頭に牛丼、ラーメン、そば、カレーなど27種類。中にはちょっとぜいたくな、ばらちらし丼やロコモコ丼のほか、ケータリングメニューも含まれおり、時代に合った構成になっています。

なおオープンに当たっては、寄付のほかに米などの食材現物のご提供もいただきましたし、日常業務の人材を募集したところ、生徒の保護者や、PTAなどからも応募があり、何とか人材を確保することができました。皆さん、秋高の役に立ちたいという情熱と理想にあふれていて、本当にありがたいことです。

学食復活による食環境の改善で生徒の文武両道を支えることができれば、同窓会としてこの上ない喜びです。

今後は、同窓会、教職員、生徒、同窓会の代表、運営スタッフによる運営委員会を立ち上げ、学食の運営管理をしていく予定です。

厨房も大忙し（4月15日）

昨春から募金開始　目標上回る600万円超に

学食を復活するには当然、食堂と厨房が必要ですが、学食廃業からはや10年。厨房機器のほとんどは使用に堪えず、新たに入れ替えをする必要がありました。

当初の調査結果では、厨房機器の入れ替え工事と、食器などの什器で約400万円程度との見通しでしたので、多少の余裕を見て500万円を目標として募金をスタートしました。昨年春のことでした。

早速、各種銀行等に口座を開設し、ホームページを立ち上げましたが、それだけでは十分な周知に至らず、募金も思うように伸びませんでした。そこで昨年6月、平成中盤以降に卒業した若手を中心とした「タスクフォース」を結成し、声掛け運動を徹底することにしました。

メンバーには、多忙な日常生活を犠牲にしながら、支部会に出向いて声掛けや集金をするなど大活躍していただきました。その後の「同窓会だより」に同封したチラシの効果も相まって、次第に募金が増え、昨年12月にようやく目標額の500万円を超え、現在までに600万円を上回りました。中には個人で100万円近い大金を匿名で寄付された方もおり、母校に対する深い愛情と支援の心には頭が下がる思いです。

なお、募金は今後も継続し、毎年一定額を生徒たちの食費の補助に充当していく予定です。今後も同窓生諸氏の絶大なご支援をお願いします。

天上天下 TENJO TENGE

「カンボジアで生活し、人々の息遣いを感じながら写真を撮りたい」。こんな思いから現地に住み、強権政治に命をかけて戦う人々の姿を追いながら世界に発信しているフォトジャーナリストがいる。秋田市出身の高橋智史さん（37）である▼土地の強制収容で暴力的な弾圧を受ける人々。反政府デモ集会に全土から集まった女性たち。活動家たちの保釈を願い悲痛な表情で両手を合わせる老婆――。高橋さんが自ら危険に身をさらしながら撮り続けた写真からは、民衆の怒り、そして悲しみの声が聞こえてくる▼その15年間にわたる取材の集大成ともいえる写真集「RESISTANCE カンボジア 屈せざる人々の願い」（秋田魁新報社刊）が第38回土門拳賞に輝いた。同賞は「写真界の直木賞」と言われる。写真集が昨年12月に出版されて以来、高い評価を受けていた▼4月5日に東京の如水会館で行われた受賞式で、高橋さんはこう語った。「私がここに立っている今も、常にカンボジアの人たちのことを思っています」。秋田西高―日大芸術学部卒。秋田高の同窓の諸兄姉、在校生も手に取れば、きっと心を震わすに違いない1冊である。

令和元年度総会 6月23日に開催

令和元年度の通常総会を、左記の通り開催いたします。総会後の懇親会に「出席」で申し込みながら、欠席する場合、総会の2日前まで事務局に必ずご連絡ください。連絡がない方には、後日、会費分をご負担願いますのでご了承ください。

□日　　時　令和元年6月23日（日）

□場　　所
秋田ビューホテル 秋田市中通2丁目6-1
電話 018-832-1111

□総　　会　14:00
議題 平成30年度 決算・事業報告
令和元年度（平成31年度）予算・事業計画ほか

□記念講演　15:30
講師　有明三樹子
りそな銀行常務執行役員（S58卒）
演題「秋田おばこよ大志を抱け!
しなやかに、したたかに。」

□懇 親 会　16:40
※会費 5,000円 当日会場でいただきます。

□申し込み
ご出席の方は、同封のはがきに必要事項をご記入の上、62円切手を貼り、6月12日までに同窓会事務局にお送りください。FAX、メールでのお申し込みも可能です。

［同窓会事務局］
ＦＡＸ　018-832-9588
Eメール　aki-doso@cna.ne.jp

今春の進路状況

東大の合格者が12人 東北大は倍増の56人

この3月には7クラス272人の3年生が卒業しました。全員が進学希望で、センター試験は270人が受験しました。このうち、国公立管外大学の合格者は179人で、昨年度より35人多くなりました。

大学別では、東京大学は現役が8人、過卒が4人で合計12人（昨年比△1）でした。現役合格者数は東北地区で仙台二高に次ぎ、盛岡一高と同数の第2位でした。秋田大学の医学部医学科には現役で12人（昨年比＋3）、過卒で10人、合計22人が合格しました。

他の国立大学では、現役と過卒を合わせて、北海道大学5人（△3）、一橋大学2人（△2）、東北大学56人（＋28）が合格しました。東北大合格者は倍増しました。

医学部医学科には延べで47人（＋10）が合格、そのうち国公立大学は35人（＋14）でした。内訳は秋田大学22人、東北大学6人、弘前大学3人、新潟大学2人、旭川医科大学1人、千葉大学1人でした。

私立大学は現浪延べで251人が合格しました。最も合格者が多かったのは中央大学で25人、次いで東京理科大学24人でした。早稲田大学は19人、慶應義塾大学は3人でした。私大全体の合格者数は延べで、現役141人（＋57）、過卒110人（△13）でした。

3年生全体に対する合格率は80・5％（昨年69・6％）でした。

秋田高校では高い志を掲げそれを最後まで諦めずに努力することを目標に進路指導を行っております。今年度も多くの生徒がこの目標のもと大きな頑張りを見せてくれました。この後も生徒の第一志望達成のため、教職員一同で支援していきたいと思います。

（進路指導部）

大学合格状況一覧

2019年4月1日現在　※合格はすべて延べ数です

国公立管外大

大学名	現役	過卒	計	大学名	現役	過卒	計
旭川医大	0	1	1	東京農工大	0	1	1
北海道大	4	1	5	一橋大	1	1	2
北教大岩見沢校	0	1	1	横浜国立大	5	0	5
弘前大	3	1	4	新潟大	18	5	23
岩手大	4	2	6	金沢大	5	2	7
東北大	44	12	56	名古屋大	0	1	1
宮城教育大	3	0	3	京都大	1	0	1
秋田大	40	12	52	神戸大	2	0	2
山形大	4	0	4	奈良女子大	0	1	1
福島大	0	1	1	九州大	0	1	1
筑波大	4	1	5	琉球大	1	0	1
宇都宮大	1	0	1	国際教養大	2	0	2
群馬大	0	1	1	高崎経大	2	4	6
埼玉大	1	1	2	埼玉県立大	1	0	1
千葉大	9	2	11	首都大東京	1	0	1
お茶の水女子大	3	0	3	横浜市立大	2	1	3
電気通信大	1	0	1	京都府立大	1	0	1
東京大	8	4	12	防衛大学校	1	0	1
東京医歯大	0	1	1	国公立管外大計	179	59	238
東京外大	1	0	1				
東京学芸大	4	0	4				
東京芸大	1	0	1				
東京工業大	1	1	2				

私立大

大学名	現役	過卒	計	大学名	現役	過卒	計	大学名	現役	過卒	計
北海道医療大	0	2	2	国学院大	1	0	1	法政大	5	4	9
酪農学園大	0	1	1	駒澤大	1	1	2	東京都市大	1	0	1
岩手医大	1	4	5	芝浦工大	5	3	8	武蔵野美大	1	0	1
東北学院大	4	0	4	上智大	1	0	1	明治大	5	4	9
東北福祉大	1	0	1	女子栄養大	2	0	2	明治学院大	1	1	2
東北医薬大	3	5	8	成蹊大	3	4	7	明治薬大	0	1	1
宮城学院女子大	1	0	1	成城大	1	3	4	立教大	5	1	6
日赤秋田看護大	1	0	1	専修大	5	1	6	早稲田大	12	7	19
東北芸術工大	2	0	2	創価大	1	0	1	神奈川大	3	1	4
つくば国際大	1	0	1	玉川大	1	0	1	関東学院大	0	1	1
自治医大	0	3	3	多摩美大	1	0	1	新潟薬大	1	0	1
白鴎大	0	1	1	中央大	10	15	25	新潟医療福祉大	2	0	2
東京国際大	1	0	1	津田塾大	3	0	3	金沢医大	0	1	1
獨協大	3	0	3	帝京大	3	0	3	名城大	0	2	2
文教大	3	0	3	東海大	4	0	4	京都女子大	1	0	1
神田外語大	1	0	1	東京女子大	5	0	5	同志社大	1	5	6
千葉工大	1	0	1	東京電機大	1	0	1	立命館大	4	1	5
青山学院大	1	4	5	東京農大	0	4	4	龍谷大	1	0	1
桜美林大	1	0	1	東京理大	6	18	24	関西大	1	2	3
学習院大	0	1	1	東洋大	4	1	5	関西学院大	1	0	1
北里大	1	2	3	日本大	5	4	9	私立大計	141	110	251
慶応大	2	1	3	日本医大	0	1	1				
工学院大	2	0	2	日本女子大	3	0	3				

医学部医学科

大学名	現役	過卒	計
旭川医大	0	1	1
秋田大	12	10	22
新潟大	1	1	2
東北大	4	2	6
弘前大	3	0	3
千葉大	1	0	1
岩手医大	0	2	2
東北医科薬科大	0	3	3
自治医科大	0	3	3
埼玉医大	0	1	1
日本医大	0	1	1
金沢医大	0	1	1
北里大	0	1	1
医学部医学科計	21	26	47

平成31年度　秋田高校教職員人事異動

転出		転出先
教頭	熊谷禎子	新屋高校
教諭	深井富美子	文化振興課
教諭	斎藤淳一	由利高校
教諭	沢井郁	秋田中央高校
教諭	髙階一也	秋田北高校
教諭	草階健樹	高校教育課
教諭	石垣成章	秋田南高校
教諭	長谷部亮	本荘高校
事務長補佐	鎌田多恵子	中央教育事務所
主事	小田島信博	栗田支援学校
主事	松井美咲希	県立図書館
臨時講師	奥山陽子	秋田高専
臨時講師	坂本真道	仁賀保高校
臨時講師	富樫渓太	新屋高校
非常勤講師	小田嶋博	秋田中央高校

転入		転入元
教頭	山城寛幸	大館鳳鳴高校
教育専門監	佐藤真弓	秋田中央高校
教諭(再任用)	佐藤利正	秋田南高校
教諭	山田公一	能代西高校
教諭	森川勝栄	生涯学習課
教諭	菊地文雄	湯沢高校
教諭	目黒大祐	横手高校
教諭	金野寛之	大館鳳鳴高校
教諭	沢田石智	湯沢高校
事務長補佐	児玉洋	高校教育課
主事	澁谷吏子	湯沢翔北高校
主事	児玉拓海	
臨時講師	渡邊晃	秋田北高校
非常勤講師	松本勉	
非常勤講師	佐藤恵利子	
非常勤講師	立花秀子	

友愛

日本スピードスケート界復活へ

～平昌オリンピックへ向けた組織改革～

日本女子体育大学教授
公益財団法人日本スケート連盟スピードスケート強化部長
湯田　淳（平成3卒）

平昌オリンピック競技会場にて（2018年）

2018年2月、冬季オリンピック平昌大会において、日本スピードスケートチームはメダル6個（金3、銀2、銅1）を獲得し、過去最高の成績を残した。2014年ソチ大会では国別メダルランキングにおいて8位（獲得メダル無し）であった日本は、その後の平昌大会では4年間という短期間で強国オランダに次ぐ2位にまで浮上し、躍進を遂げた。平昌大会において筆者はスピードスケート監督として臨んだが、ここでは平昌大会へ向けた4年間の強化の取り組みを紹介したい。

冬季オリンピック日本スピードスケート界は1984年サラエボ大会で銀メダルを獲得し、その後6大会連続でメダルを獲得している。長らく高い国際競技力を誇ってきた日本であったが、2010年バンクーバー大会後は大きく力を落とし、その後のソチ大会ではメダルを逃すとともに入賞数が4つと低迷期を迎えてしまった。

このような背景の下、筆者はソチ大会後にスピードスケート強化部長として、現場の強化責任者としての任を受け、4年後の平昌大会へ向けての再建を進めることとなった。2000年より科学責任者として強化現場における科学サポートを担当してきたが、それまでの立場とは全く異なる立場でのスタートであった。

新体制では国際化を積極的に推進し、先進的なコーチング技術を取り込むことによって国際競争に打ち勝つ強化システムの構築を目指して「ナショナルチーム」と「個別選手強化」という競争の構図の下での強化システムを設定した。結成されたナショナルチームは、国外から有能な人材をヘッドコーチとして招聘し、企業や大学といった所属の垣根を越えて能力の高い選手を集め、医学や科学等のスペシャリストのサポートを受けながら年間を通した連盟主導のチームとして活動するといったものであった。

ナショナルチーム入りは、選手（およびその所属）が判断するという選択制とした。ナショナルチームを選択しなかった有力選手においては、高い競技力を育む現在の所属での強化を推進するため、別途強化費を支給することとし、これを個別選手強化というカテゴリーとした。このようにして構築されたナショナルスプリントおよびオールラウンドチーム強化、そして個別選手強化といった3つのカテゴリーが切磋琢磨しながらトレーニングに励み、日本代表選手団として国際競技力向上を目指して世界を見据えて戦うという新システムを構築した。

ソチ大会後に取り組んだ改革は、人事や権限の変更といった痛みを伴う厳しいものであった。平昌大会へ向けて年度ごとに課題を洗い出し、解決策を遂行するといった繰り返しによって前述の強化体制を洗練化させつつ推進した。平昌大会の成功は、選手をはじめとする多くの関係者の努力が結実したものであると改めて実感している。

Profile

ゆだ・じゅん／1972年秋田市生まれ。筑波大学体育専門学群卒。同大大学院にて体力トレーニング論で修士号、バイオメカニクスで博士号を取得。スピードスケート競技引退後、2000年より日本スケート連盟スピードスケート強化部の科学担当者としてオリンピックをはじめ多くの国際大会に帯同。国立スポーツ科学センター研究員を経て、2007年に日本女子体育大学に着任。2014年よりスピードスケート強化部長に就任し、平昌オリンピックでは監督としてスピードスケート陣を指揮。同連盟理事、科学委員長。

山内法律事務所
弁護士
山内　満（昭和47年卒）
弁護士
有働 悠一
〒010-0945 秋田市川尻みよし町1-49
TEL 018-888-3711 FAX 018-888-3712

人類は森から生まれた
「街に森を、緑を」
植樹ボランティア
グループ「森」
皆さんの参加をお待ちします！
会長・川上 茂樹（昭和45年卒）
石澤 千秋（昭和46年卒）
林　康夫（昭和47年卒）
藤原 彰人（昭和47年卒）
《事務局》018-828-3033

生活空間をクリエイトする
Total Interior & Water Proof Design
株式会社 東和
代表取締役 野口久栄（昭和47卒）
〒010-0921
秋田市大町2丁目7番26号
TEL.018-864-4561
FAX.018-864-4564
URL　http://www.akitanet.jp/towa/

AKT 秋田テレビ 50th FANFUNFAN
代表取締役社長
石塚 真人（昭和47年卒）
秋田テレビ株式会社
本社：〒010-8668
秋田市八橋本町3-2-14
TEL.018-866-6121
FAX.018-866-3838

272人が新たに仲間入り

平成31年2月28日、母校体育館で同窓会入会式が開かれた。新たに入会したのは翌日に卒業式を控えた卒業生272人。河村希典さん（平成2卒）が司会を務めた。

視野を広く持って進め

まず銭谷眞美会長があいさつに立ち、「卒業を祝するとともに、同窓会への入会を歓迎する」と述べた上で、一人一人に語りかけるような口調で、次のように述べた。

「皆さんは多くが秋田で生まれ、秋田で育ち、秋田で学んできたことと思う。部活動や大学受験では県内や他県の高校生が相手だったと思う。ただ、この先の大学や就職では、国内にとどまらず世界各地に場が広がる。学問でも就職でも行政でも同じ、世界が相手である。どうか視野を広く持って、ものの見方や考え方を多角的で深いものとして、世界の中の日本、秋田、そして自分という意識で世界の平和と、持続可能な成長に貢献できる人材へと育っていってほしい」

心震わす出会い大切に

続いて平成2卒で、19年に秋田市に株式会社ゼロニウムを設立し、秋田を代表するコンピュータグラフィックス（CG）制作プロダクションに成長させた、代表取締役の伊藤茂之さんが新入会員に激励の言葉を贈った。

伊藤さんは「卒業おめでとう。皆さんは平成最後の卒業生であると同時に、新しい時代を担う貴重な人材である」と前置きした上で、株式会社ゼロニウムについて「秋田におけるCGのパイオニア的な会社で、秋田初のCGプロダクションである。CGプロダクションが多くあるのはもちろん東京なのだが、秋田にも意外と多くあり、その先頭に立って活動している。」と説明。現在手がけているというプロジェクションマッピングやヴァーチャルリアリティコンテンツについて、動画を交えながら分かりやすく解説した。

さらに自分が今の道を選んだ理由として、「高校1年生のときにゲーム『ファイナルファンタジー』との〝心震わす出会い〟があった、そのときに受けた衝撃が自分のキャリアデザインのスタートだったといえる」と打ち明けた。そして「仕事に興味を持ち、勇気を持って旅立つことが重要だ。皆さんも心震わせる出会いを大事にして、勇気ある旅立ちをしてほしい。そしてその旅路の先に、いつか故郷へ帰ってくることも視野に入れてもらえるとうれしい。皆さんの来る新時代での活躍を期待しています」と、新入会員へエールを送った。

喜びと強い責任感じる

その後、同窓会の中村順子副会長から記念品を受け取った新入会員代表の髙橋花樺さんが「各界でご活躍される先輩が多くいらっしゃる秋田高校同窓会の一員になることに3年生一同、大きな喜びと強い責任を感じている。高校在学中、さまざまな場面で同窓の先輩方からご指導いただき成長することができた。今後は自分たちがその立場となれるよう、全力を尽くしたい」とお礼の言葉を述べた。

そして最後に、応援団OB・紫紺の会の鈴木明夫さん（昭和45卒）のエールで全員が校友会歌を歌い、272人の入会を祝った。

お礼の言葉を述べる髙橋花樺さん

「150年史」に情報提供を

「150年史」への情報を求めています。

◆入学時に渡された木札

校章が焼き印され、自分の名前が墨書された木札。いつから始まったか不明です。現在、S33年入学者までは確認されています。それ以前に配布された事実があれば、同窓会事務局にご一報ください。

◆卒業時の記念品

卒業時、同窓会からの記念品の推移を教えてください。今のところ、次の物しか確認できておりません。

① S36年卒＝（男性）校章入りのバックル（女性）銀線細工のブローチ
② S45年卒＝（男性）校章入りネクタイピン
③ 時期不明＝校章入り文鎮
④ 時期不明＝USBメモリー

◆太平山登山の写真

特に山頂での写真。

◆修学旅行の内容

実施日や日程、宿泊地、米持参の有無など。

◆駅前校舎の時代にあった薪当番に関すること

◆生徒手帳等に残された授業の1週間の時間割表

現在、次の3件は収集済みです。

① S54年卒の3年間時間割。
② S40年卒の3年間時間割。
③ H2年入学の1年次の時間割。

※　※

これら6件の情報を求めていますので、よろしくお願い致します。

（150周年記念誌編集特別委員会・半田和彦）

平成という時代

東大名誉教授　佐々木 毅（昭和36卒）

ささき・たけし／東大法学部（昭和40）卒。専門は政治学。西洋政治思想史。東大助教授、教授、法学部長を経て、2001（平成13）～05年に第27代東大学長。現在、（公財）日本生産性本部副会長、日本アカデメイア常任塾頭。主な著書に「近代政治思想の誕生」「プラトンと政治」「プラトンの呪縛」等多数。日本学士院会員。美郷町（旧千畑町）出身。

平成元年は長い間続いた冷戦が終わった年であり、世界にとっても区切りの年であった。これ以後、世界はグローバリゼーションと民主化の波に洗われることになった。

当時、冷戦の終結と共に、軍事の時代から経済の時代になること、日本はその強力な経済力によって絶好の地位にあることが常識とされ、「もはや他国に学ぶものなし」という気分が支配的であった。実際、日本は世界の競争力でもトップを占め、世界の株価総額の上位を日本企業が独占していた。

勿論、「経済一流、政治三流」と言われたように、金権派閥政治といった問題があり、平成元年にはリクルート事件が発覚し、政治改革というテーマが浮上した。

平成の政治はまずこの積年の病弊と取り組み、制度を変え、それなりの成果を挙げた。折から、バブルが崩壊し、その後始末に忙殺されることになった。バブルの崩壊によって日本は膨大な富を失うとともに、大金融機関の破綻などかつて経験したことのない事態に直面した。平成政治は安倍政権に至るまで経済問題に多くのエネルギーを費やすことになったが、日本経済は遂に昔日の勢いを取り戻すことはなかった。日本企業の姿は世界の株価総額の上位からほとんど消え、世界経済全体に占める日本経済のウエイトも急落した。財界の一部から出ている、「平成は経済の敗戦の時代」という声は否定しがたいものがある。但し、その割には万事において自己満足の風潮が目につくように見えるが。

平成は消費税という新しい税の導入と共に始まった。それが将来の高齢社会の到来を念頭に置いたものであったことは明らかである。しかし、この税に対する国民の反応は厳しく、平成元年の参院選で自民党は大敗した。それ以後も税率の引き上げは進まず、政府は財政赤字を膨らませる形で対処し、その結果、財政赤字は大膨張してしまった。消費税率は平成の最後になってようやく10パーセントが見えてきたが、この三十年の間にかつての一億総中流社会は格差社会に変わり、引き上げがどうなるかは楽観を許さない。総じて、平成の政治は今後の社会保障制度の安定した財政基盤づくりに十分な成果を挙げたとは言えない。

平成は中国の驚愕すべき巨大化の時代であった。それが日本や世界の政治や経済にとって何をもたらし、どのような影響を及ぼすかは、平成が遺した最も重いテーマである。先進各国におけるポピュリズムの台頭も平成元年の楽観主義からの転換を示唆している。改元と共に、われわれは再び歴史の変わり目にさしかかっている。

美郷町畑屋にある佐々木毅記念室・数々の著書、蔵書が並ぶ

記念室には佐々木名誉教授の「年譜」、愛用の品々（机・ワープロ等）が展示されている

ZOOM UP!

おかべ・だい。1989年秋田市生まれ。早稲田大スポーツ科学部卒。ワタナベエンターテインメント所属。2014年から、秋山寛貴、菊田竜大とお笑いトリオ「ハナコ」で活動。2018年はキングオブコントで優勝。ワタナベお笑いNO.1決定戦優勝、お笑いハーベスト大賞優勝など、テレビや全国各地のライブで活躍中。都内在。（写真右端が筆者）

お笑いの原点　中山君

岡部　大（平成20卒）

今のトリオ、ハナコを組む前は、エガラモガラというコンビで活動をしていました。相方は、秋田高校の同級生中山君でした。中山君とは3年間同じクラスで、2年生から、放課後の教室で仲の良い友達数人の前で漫才を披露するようになり、3年生のときは、文化祭で教室を貸し切ってお笑いライブをしたり、体育館でのイベントでMCをしたりしていました。そして、2人とも大学進学を機に上京、出場した大学生お笑い大会がきっかけで、今の事務所に所属することになりました。僕をお笑いの世界に誘ってくれたのは、中山君です。彼がいなかったら、今、僕はお笑いをやっていません。

でも、エガラモガラの解散を切り出したのは僕からでした。芸歴2年目を迎えたあたりから、漫才から徐々にコントに興味を持ち始めて、コントをする機会が増えましたが、コントになると中山君の演技が全然しっくりきませんでした。そして3年目、僕は彼に解散を切り出しました。高校からの思い出が蘇ってきて、解散しよう、の一言がなかなか出てこなかったのを覚えています。

中山君は驚くほどあっさりと了承しました。「そうかー、分かったわ」と言って、すぐ帰りそうになったので、僕が無理矢理思い出話とか、本当は僕だって解散なんてしたくはないんだとか、最近こんな面白いことがあったとか、あれこれ話を延ばして引き留めました。ひと通り僕の話を聞き終えると、中山君は自転車に乗って颯爽と帰って行きました。そして「お前とやらないならお笑いする意味ないから」とすぐに芸人を辞めました。

昨年のキングオブコントで優勝した後で、中山君から久しぶりにラインが届きました。おめでとう、と一言だけでした。もっといろいろ言ってくれよ、語ってくれよ、と思いましたが、何だか彼らしくて、とても嬉しかったです。ハナコの活動を見てくれているんだな、もっともっと頑張らなきゃと気が引き締まりました。

先日、同期の芸人が中山君と飲み会をしたそうです。中山君は「早くハナコの波乱爆笑とかA-Studioとか呼ばれねーかなー。俺はいつでも準備できているんだけどなー」と言っていたそうです。めちゃくちゃテレビ出る気まんまんみたいです。

情報発信で町の元気のお手伝い

苫米地（旧姓・吉田）圭（昭和54卒）

「時刻は午前9：00です。亘理町コミュニティ放送FMあおぞらスタートです。」

私は今、毎日、宮城県亘理町のコミュニティ放送FMあおぞらの代表として、その運営に忙しい日々を送っています。

しかし8年前の私は、専業主婦として子育てに専念していました。そんなのんびりした生活が一変したのはあの東日本大震災の日です。

「水道が出ない。水はどこに行ったら手に入るの？」。電気もない中で寒さに震える子どもと、高齢の母の肩を抱き途方に暮れたあの日、命を守るために「情報」が不可欠だと初めて知りました。そして、普通の主婦が「亘理町臨時災害放送FMあおぞら」の運営の中心を担うことになったのです。

5年間の臨時災害放送の活動の間に、大きな発見がありました。それは主婦として暮らしていた時には見えていなかった町の姿です。「臨時」ではありましたが、町の放送ということで、たくさんの町民にラジオに出演してもらい、町内の仮設住宅、町内会の行事、復興イベントに取材に出かけ、直接町の人々や町の素顔に出会うことができました。

この経験を通じて気づいたのは、小さい町であればあるほど、コミュニティ放送は力を発揮するということでした。町の元気は住民一人一人の元気です。町民が自分の町をよく知って、町の生活を楽しむことから、町のコミュニティも経済も活性化します。町の情報発信基地として、おらほの町のコミュニティ放送がほしい。

さあ、そこからが正念場でした。臨時災害放送は町の事業でしたが、今度は資金を自分で一から集めなければなりません。1株1万円で市民株主を募り、町民と一緒に勉強会を開きました。そして昨年11月27日、ようやく開局を迎えることができました。

「FMあおぞら」は1日9時間の生放送ですが、亘理100パーセント。亘理で暮らしているからこそ発信できる、亘理の元気に必要な情報を届けています。町の広場のような放送を目指して、今日も亘理町情報発信中です。

とまべち・けい／1960年秋田市生まれ。宮城教育大学卒業、東北大学大学院文学研究科修了後、YMCA予備校仙台校で国語科専任講師となる。2012年NPO法人エフエムあおぞらを立ち上げ、「亘理町臨時災害放送FMあおぞら」を5年間運営。2017年株式会社エフエムわたりを設立。「亘理町コミュニティ放送FMあおぞら」を運営している。

あの頃の思い出 ▶4◀

マネジャーから見た甲子園

誇らしかった仲間の姿

中村 順子（62）＝昭和50卒、秋田高同窓会副会長

なかむら・よりこ／昭和31年8月、仙北市角館町生まれ。54年聖路加看護大学卒業後、聖路加国際病院内科病棟に勤務。60年から東京都世田谷区衛生部で訪問看護を始める。その後、在宅ケアの領域で訪問看護師やケアマネジャーとして実践を続ける。
平成19年10月から秋田に帰り、看護教育の現場へ。日本赤十字秋田短期大学准教授。20年聖路加看護大学大学院博士前期課程修了、23年青森県立保健大学大学院博士後期課程修了。25年から秋田大学大学院医学系研究科保健学専攻教授・医学系研究科附属地域包括ケア・介護予防研修センター長。29年6月から秋田高校同窓会副会長。

昭和48年は秋田高校創立１００周年の記念の年でした。甲子園の第１回大会で準優勝をした名門秋田高校野球部は、「１００周年の時に甲子園出場を！」との周囲からの期待に見事応えて出場権を獲得したのでした。しかも開会式で、高木昇主将が選手宣誓するという県勢初の記念すべき出来事もありました。

甲子園のアルプススタンドで応援する筆者（右）＝昭和48年8月。左の写真とも筆者提供

「食事の準備」がマネの役割

現在では硬式野球部の女子マネジャーは珍しくなく、「もしドラ（もし高校野球の女子マネジャーがドラッガーの『マネジメント』を読んだら）」でも分かるように、チームのマネジメントを行う重要な役割を担っているのだと思います。しかし、当時は残念ながらそのような役割など期待されず、私たち自身も自覚はありませんでした。

では、その主な役割は何であったかと言いますと……。何といっても「食事の準備要員」です。度々行われる合宿の時、私たちの力が発揮されるのでした。特に甲子園を目指す夏の合宿は、負ける日までのガチンコ合宿。私たちも気合が入ります。

この食事の準備を通して、15歳から18歳という多感なときに〝人のために食事を準備し、喜んでもらう〟という貴重な体験を得ることができたのです。このことは私の人生に少なからず影響を与えたと感じています。

汗だくで特大ステーキ焼く

わがチームはOBや地域から、いろいろ差し入れが多いのも特徴だったのではないでしょうか。当時食べたことも見たこともない〝草鞋のように大きなステーキ肉〟を持ち込んだ方がいて、「これを焼いて選手に食べさせてくれ」と言われたこともあります。私ともう一人のマネジャー（旧姓・藤原美起さん）は汗だくになってステーキ肉を焼きました。

焼く方が焼く方なら食べる方も食べ

細部眼科医院
院長 細部泰雄（昭和57卒）
（医学博士・日本眼科学会認定眼科専門医）
URL http://hosobe.com
TEL 018－883－5088
秋田市保戸野すわ町15－2
《隣設》アイ・ライフ・コンタクトセンター（コンタクトレンズ）

歯科明徳町クリニック
院長 佐藤直人（昭和57卒）
診療時間
月 9:00～12:30 14:00～17:30
火 9:30～13:30 15:00～18:30
水・金・土 8:30～12:30 14:00～17:30
休診日 日曜日、祝日、木曜
〒010-0875秋田市千秋明徳町3-48
TEL 018-832-4224

産科・婦人科・内科
川原醫院
院長 川原聡樹（昭和57卒）
秋田市手形字山崎194－1
TEL 018－833－4868

株式会社 菓子舗 榮太楼
菓子づくり130余年
代表取締役社長 小国輝也（昭和57卒）
http://www.eitaro.net

る方なので、「赤い身が残っていると腹をこわすから完全に火を通してくれ」と要求する選手ばかり。かくして、草履のように大きくゴムのように硬い牛肉を頬張り、「これがステーキが。大したこと、ねえな」という残念な感想で終わってしまったこともあります。

合宿は選手のお母さんたちも交替で参加し、食事作りを手伝います。秋高野球部に籍を置く息子に対する思いは誰もがひとしおのようで、お母さんたちの話題は常に「いかに息子の世話が大変か（でも、それが自慢か）」ということでした。

創立100周年の記念すべき年に甲子園に出場した秋田高野球部。
左端が筆者

秋田高校甲子園全成績
夏19回、春5回（通算10勝24敗）

大正4年夏（第1回）	準々決勝	○	秋田中9−1山田中（三重）	
	準決勝	○	秋田中3−1早実（東京）	
	決　勝	●	秋田中1−2京都二中（京都）延長13回	準優勝
大正11年夏	1回戦	●	秋田中9−14広島商（広島）	
大正13年夏	2回戦	●	秋田中1−13松山商（愛媛）	
昭和6年夏	1回戦	○	秋田中6−0千葉中（千葉）	
	2回戦	●	秋田中1−19中京商（愛知）	
昭和7年夏	1回戦	●	秋田中1−8早実（東京）降雨6回コールド	
昭和8年夏	2回戦	●	秋田中5−7郡山中（奈良）	
昭和9年夏	2回戦	○	秋田中5−1福島師範（福島）	
	準々決勝	○	秋田中17−7敦賀商（福井）	
	準決勝	●	秋田中0−9呉港中（広島）	
昭和12年夏	2回戦	●	秋田中5−13滝川中（兵庫）	
昭和28年夏	2回戦	●	秋田0−2松山商（愛媛）	
昭和29年夏	2回戦	●	秋田0−5三原（広島）	
昭和31年夏	2回戦	●	秋田1−10浪華商（大阪）	
昭和40年春	1回戦	●	秋田6−7静岡（静岡）延長11回	
昭和40年夏	1回戦	○	秋田4−3大鉄（大阪）延長13回	
	2回戦	○	秋田5−3日大二（東京）	
	準々決勝	○	秋田13−1津久見（大分）	
	準決勝	●	秋田3−4三池工（福岡）	
昭和41年夏	1回戦	●	秋田0−2中京商（愛知）	
昭和48年夏	2回戦	●	秋田0−1北陽（大阪）	
昭和58年夏	2回戦	●	秋田3−5高知商（高知）	
昭和61年春	1回戦	○	秋田3−2高松西（香川）	
	2回戦	●	秋田1−7岡山南（岡山）	
平成元年春	1回戦	●	秋田1−4北陸（福井）	
平成3年夏	2回戦	○	秋田4−3北嵯峨（京都）	
	3回戦	●	秋田3−4大阪桐蔭（大阪）延長11回	
平成6年春	1回戦	●	秋田4−8智弁和歌山（和歌山）	
平成6年夏	2回戦	●	秋田2−8樟南（鹿児島）	
平成8年春	1回戦	●	秋田1−7滝川二（兵庫）	
平成11年夏	1回戦	●	秋田0−4樟南（鹿児島）	
平成15年夏	2回戦	●	秋田2−3天理（奈良）	

甲子園はただただ暑かった

さて、あの甲子園。秋田と違ってひたすら暑く、食事の準備は必要ないので選手の体調のみ心配していました。当時、女子はベンチに入ることを許されず、アルプススタンドでOBや生徒、応援団と共に観戦しました。じりじりとした投手戦。対する北陽高校（大阪）の有田投手は前評判がとても高く、現地でタクシーに乗ると運転手さんが「あんたら、どこのチーム？　どこと戦うの？」と必ず聞いてきます。そして必ず「あー、そりゃあかんわ。有田のことは打てん。かわいそうやったな」と言うのです。

ですから打ったヒットは2本でしたが、北陽高校と対等に試合をする選手たちがとても誇らしく感じられました。

高校卒業後、私は長い間東京で暮らし、自分がマネジャーであったことも忘れていましたが、平成19年に秋田に帰ってから野球部の仲間との交流が再開しました。私の仕事柄、介護や医療の相談に乗ることも珍しくありません。当時、赤沼監督からは「女子マネなんていらないんだよ！」と度々怒られましたが、今は「マネいて良かったな」と言ってくれるのがとても嬉しく、この交流を大事にしていきたいと考えております。

秋田県知事（5）1720号（公社）秋田県宅地建物取引業協会会員
井川エステート有限会社
代表取締役/宅地建物取引士
森　田　卓　二
（昭和５７年卒）
〒018-1516 秋田県南秋田郡井川町浜井川字土樋１６０番地
TEL 018-874-4010　FAX 018-874-4011
E-mail info.ikawaestate@gmail.com

株式会社サンワ
代表取締役
宮　田　諭（さとし）
（昭和57卒）
本社　〒010－0951
秋田市山王５丁目９番31号
ＴＥＬ 018（863）1345（代表）
ＦＡＸ 018（862）7179
E-Mail: s.miyata@sanwa-neji.jp

株式会社八森運輸
http://www.hachimori-unyu.com
代表取締役社長　畠　山　亨（昭和57年卒）
Akira Hatakeyama
安全認定　安全性優良事業所
グリーン経営認証　エコモ財団
〒018-1401 潟上市昭和大久保字北野細谷道添 73-103
TEL 018－877－6781
FAX 018－877－6770

つどい TSUDOI

締めは“全力校歌”

近畿支部

昨年11月10日（土）、大阪市の大阪キャッスルホテルで、同窓会から銭谷眞美会長、安田浩幸校長にご出席いただき近畿支部総会・懇親会を開催した。

出席者は来賓のお二人、現役大学生を含め39人。学生の参加を呼び掛けて6年目、幅広い世代の参加者となった。今回は下田学氏（昭和53卒）による大学生の就職事情と自己分析に関する講演があり、出席した学生たちは大いに参考になったと感想を述べていた。

その後の懇親会では、銭谷会長のご挨拶、安田校長から後輩の活躍と母校の近況報告があり、萬田耕先輩（昭和28卒）の乾杯発声で祝宴開始。歓談の話題の中心は昨年夏の金足農業の活躍。全試合応援に行った会員もおられた。地元の高校の活躍は故郷を遠く離れた我々にとって誇らしく、秋田に生まれてよかったとの声が多く聞かれた。

最後は、「全力校歌」とエールで中締め。半数以上がホテル内での2次会で旧交を温め、ここでも校歌を熱唱し再会を誓って散会した。　（幹事長・藤田　誠＝昭和47卒 記）

世代をつないで

津軽支部

昨年12月8日、「飲食　芝田商店」で平成30年度津軽支部総会・懇親会を開催いたしました。毎年この時期に開催しております。ここしばらく欠席されていた方や初参加の方を含め14人で少人数ながら、昭和36卒の方から平成30卒の方までほぼ3世代で語らうことができました。

同窓会から佐藤悦紹企画委員長にお越しいただき、母校やふるさとの近況をお話しいただきました。今はなくなってしまったという学食の思い出を語ったり、海外研修というかつては想像もできなかった企画に驚いたり、そしてその研修の参加者を選ぶための校内イベントに出場した人の体験談に感心したり、懐かしさと新鮮さが入り混じる会となりました。

支部総会・懇親会のご案内とともにお送りしている支部会報に平岡恭一支部会長の昭和44年卒同期会参加記を掲載したところ、県内の同期の方から温かい反響をいただきました。この記念写真の中に見覚えのある顔を見つけた方は（そうでない方も）、次回の会合に是非ご参加いただけますよう、お待ちしております。　（幹事・成田 明子＝昭和60卒 記）

学びと酒と友ありて

昭和42年卒同期会・四二会

毎年9月の第1土曜日と決めている「四二会」。今回はお酒が入る前に少しばかり「学び」の時間を設けたため、午後5時のスタートとなった。

秋田市の協働大町ビルには80人の仲間がそろい、集合写真に収まった後、気合を入れて何とか校歌を5番まで歌い切ることができた。続く「学び」の時間、内科医の俵屋幸蔵君が「健康長寿の鍵～あの世に行くにも体力が必要～」と題してユーモラスに講演した。多くは日頃のわが身の不養生を思い知らされ、改めて〝健康第一〟の認識を強くしたようだ。

懇親会は、脳出血の後遺症を味方につけて17年、今回は夫人同伴ながら高知県から1人で車を運転して駆け付けた千葉徹君の力強い乾杯の発声で始まった。全国各地の銘酒を味わいながら会場はあちこちで談笑の輪が広がり、にぎやかな笑い声に包まれた。最後は元応援団長の池田和男君のリードで校友会歌を大合唱、次回もまたこの場所で再会しようと誓って散会した。　（石井　仁 記）

学食復活にエール

大潟村秋高同窓会

3月18日（月）、ホテルサンルーラル大潟を会場に第33回通常総会と懇親会を開催しました。この春の高校入試を突破し、4月から秋高生となる新入生とその父母らと、大学を卒業し社会人となって地元に戻ってきた会員らを含め合わせて21人が出席しました。

同窓会からは安田浩幸校長と郷土創生特別委員会の佐藤裕之委員長にご出席いただきました。安田校長から母校の近況を紹介していただき、佐藤委員長からは特別委員会で強力に推進している学食復活プロジェクトの進捗状況の説明がありました。同窓会での運営が間もなくスタートするとのことで、農業者のメンバーの多い大潟村支部としてもこのプロジェクトに注目していきたいと思っております。

昭和30年卒から平成25年卒まで幅広い世代が集合した懇親会の締めは、恒例の校歌斉唱と新入生への励ましのエール、続いて佐藤忠浩支部副会長（昭和54卒）による万歳三唱で散会となりました。　（事務局・遠藤　暁＝平成2卒 記）

❷原稿の最後に執筆者名（支部等にあっては卒業年次も）をお忘れなく。
❸投稿いただいた原稿、写真はお返ししません。どうぞご了承ください。〈広報委員会〉

隔年総会盛大に開催

北秋田支部

昨年11月23日午後6時から、北秋田支部総会を北秋田市鷹巣のホテルニュー松尾で開催した。総会には衆議院議員金田勝年（自民党幹事長代理＝昭和43卒）、参議院議員中泉松司（平成10卒）両氏にご出席いただいた。

安田校長から秋高の近況をご紹介いただき、文武両道に励む生徒諸君の活躍の様子や学校創立150周年に向けての抱負等を語っていただいた。

総会議事の支部役員改選では、満場一致で全員が再任され懇親会に移った。校歌斉唱の後、同窓会からご出席の150周年記念誌編集特別委員会の半田和彦委員長から鷹巣綴子地区を通る羽州街道に関わる貴重なお話があり、地元の歴史を再認識することができた。

乾杯の後の祝宴では、同窓会から託された秋高ロゴ入りのスポーツタオル10枚が瞬時に完売。母校に対する思いは深く熱いものがあった。

当支部は2年ごとに総会を開催している。当地区に在住もしくは赴任する同窓諸兄の積極的な参加をお願いし、2年後の再会を約して散会した。（事務局・佐々木 孝憲＝昭和42卒 記）

母校の発展と退職者へ感謝

県庁支部・総会送別会

3月4日秋田市のアキタパークホテルで、県庁支部総会・送別会を開催した。佐野元彦同窓会副会長、安田浩幸校長をご来賓に迎え、堀井啓一副知事（昭和46卒）、米田進教育長（昭和45卒）、杉本俊比古県議会議員（昭和45卒）、北林丈正県議会議員（昭和54卒）の顧問4人を含む総勢54人の参加により、総会では決算、予算案が承認されたほか、新支部長に佐々木司氏（昭和53卒）、副支部長に水澤聡（同）、妹尾明（同）の両氏が選任された。

総会に続き送別会が行われ、今年度退職者13人中、金子治生（昭和52卒）、和泉克（同）、加藤仁悦（同）、嵯峨要（同）、山添匠（同）の5氏にご出席いただいた。

送別会は杉本顧問の挨拶・乾杯の発声でスタートし、佐野副会長、安田校長から学食復活や在校生の活躍などの近況報告、退職者のスピーチなどが行われ、最後は佐々木翔太氏（平成26卒）のリードで校歌斉唱。佐々木氏、近藤駿氏（平成24卒）、赤坂絢也氏（平成26卒）の3人による退職者へのエール、水澤副支部長の万歳三唱でお開きとなった。今年度は平成26卒の6人をはじめ、若手の参加が多く、活気のある大いに盛り上がった宴となった。

（幹事・内田 鉄嗣＝昭和63卒 記）

平成最後の同期会56人集う

昭和59年卒同期会

2月10日（日）午後4時から秋田市の秋田ビューホテルで、昭和59年卒同期会を開催しました。2月の3連休を開催日としたことから、県内はもとより全国から54人の同期生が集い、2人の恩師（菅原洋、米田進の両先生）をお迎えし、楽しいひとときを過ごしました。

同期会は、同窓会役員（監事）も務める田村泰教君の進行で両先生から挨拶と乾杯のご発声を賜り、和やかに進みました。卒業以来35年ぶりの顔もあり、参加者全員が近況報告を行いました。時が過ぎるのも忘れ、思い出を語り合い、お互いの健勝を喜ぶ声が会場に溢れました。盛会の中、元応援団の渡辺和則君のリードで校歌を斉唱し、生徒会副会長だった田口大志君の中締めで名残を惜しみつつ閉会しました。

今回の同期会開催に当たっては、SNSやE-mailを駆使して情報発信し、現住所が不明だった15人と連絡を取ることができました。次回の開催に向けて、さらにネットワークを広げていきたいと思っています。今回参加できなかった同期の方もぜひ機会を見てご参加ください。（三浦　亨 記）

“出席とり”で盛り上がる

松鳴会（新屋支部）

2月24日（日）秋田市新屋の工藤旅館で、新屋地区秋田高校同窓会「松鳴会」を開催しました。

安田浩幸校長、同窓会の佐野元彦副会長をお迎えし、新屋地区の23人が出席しました。総会の役員改選では会長の高橋昌一氏（昭和21卒）を名誉顧問に、新会長に藤澤浩氏（昭和29卒）、副会長に赤沼侃（昭和39卒）、中野鋼一（昭和47卒）の両氏を選出し、幹事には大島昌良（昭和50卒）、菊地誠（昭和54卒）、渡辺覚（昭和54卒）、藤澤哲（昭和55卒）の各氏がそれぞれ再任されました。

懇親会では松鳴会恒例の、後輩が先輩を君付けで呼ぶ「出席とり」を行うなど、締めの校歌斉唱まで近況を報告し合いながら大いに盛り上がりました。

「松鳴会」は秋田高校同窓生で、秋田市立秋田西中学（前身・日新中学）卒業生、新屋地区居住者及び勤務者を対象に行っており、これまで12回開催しています。

ご興味をお持ちの皆様からの連絡をお待ちしております。ご連絡は上記役員もしくは中野（nakano@cna.ne.jp）までお願いいたします。（副会長兼幹事長・中野 鋼一＝昭和47卒 記）

「つどい」投稿について

❶「つどい」欄への投稿は毎回多数にのぼるため、スペースの制約からやむを得ず、原稿を短縮したり次号に回すことがあります。原稿は概ね400字(原稿用紙1枚)を目途にお願いします。

卒後30周年の同期会開催

平成1年卒同期会

1月2日（水）午前11時半から秋田市の秋田ビューホテルで、107人が参加して卒業30周年記念の同期会を開催した。今回は幹事事務局の丸野内彦太君を中心にSNS等を活用した結果、住所未判明だった162人の住所が新たに判明し総勢416人に案内を送付した。平成1年卒の住所判明率は9割を超え、同窓会で2番目まで上昇したことは大きな喜びとなった。

同期会はまず記念撮影に臨み、その後逝去された恩師へ黙祷を捧げた。小野寺純也君が司会を担当し、幹事長桜田浩君が挨拶、5人の来賓を代表して県教育長の米田進先生からご挨拶と乾杯のご発声をいただいた。祝宴に入ると一気に会場は盛り上がり、48歳を迎え各界各層で活躍している同期の熱気は冷めることなく、担任の先生の胴上げも含めて、高校時代を彷彿させるような濃密な時間を過ごすことができた。2次会にも80人超の参加者があり、仲間と共有する時間を惜しみつつ散会した。なお、当日は同窓会作製のスポーツタオルの販売にも協力し、50本を売り上げ、後日10万円を同窓会に届け、OBとしての役割を果たすことができたことも報告しておきたい。（澁谷 明人 記）

3年間の活躍讃え飛躍祈る

陸上部OBOG会

2月28日、同窓会入会式終了後に陸上競技部OBOG会の入会式が同窓会館（羽城館）で開催されました。

平成30年度卒業生16人を迎え、佐々木時夫会長（昭和47卒）、三船新次顧問（昭和31卒）はじめOB6人、それに陸上部の南都勲監督、伊藤健一、佐藤健一両顧問が出席し、昼食会を兼ねて行われました。

はじめに佐々木会長から、この3年間の努力と活躍をたたえる挨拶があり、引き続き卒業生を代表して男子主将の土田訓徳さんに記念写真と襷が贈呈されました。土田さんからは、陸上部で得たことや感謝の気持ちが語られました。

卒業生の皆さんには、秋高陸上部で培った経験を忘れず、今後はOBOGの一員として現役部員たちを支援してくれることを期待しています。（事務局・榎　昌範＝昭和50卒 記）

楽しかった“仙波学年”

平成11年卒同期会

1月2日、秋田市の秋田キャッスルホテルで平成11年卒同期会を開催しました。恩師7人と級友70人が参加し旧交を温めました。

友との語らいが楽しかったのは言うまでもなく、盛り上がったのは恩師らの挨拶でした。当時の学年主任だった仙波昭彦先生からは「かつてないほど大変な学年だった」とのお言葉。現在、教師として教壇に立っている級友らはその苦労に共感してか苦笑いしておりました。自らが好きな特撮ヒーローのことだけを話して終わる恩師もおり、“変わらないなあ”と嬉しく感じました。3回目となる今回の同期会には、生徒会長だった佐々木亨君が初めて参加。「秋田のために何ができるか考えよう」との力強く感情のこもった言葉は、やはり我らが生徒会長だと実感させてくれました。

参加人数は微減しているものの、毎回素晴らしい時間を過ごせています。今後も互いの連絡を密にし、ネットワークを維持していきたいです。次回開催時には「不惑」を迎えている年齢。子育てや仕事に忙しい時期ではありますが、一回り成長した皆に会うのを楽しみにしております。（高橋 尚義 記）

卒業10周年同期会を開催

平成21年卒同期会

10年前に開催した「雫祭」。この1月2日、10年ぶりに一夜限りの幕が上がりました。同期生154人に恩師11人を加え、165人が一堂に会した日。久々に見た懐かしい顔に、10年前の校舎での青春が一瞬にして蘇ったようでした。

我らが学年主任、佐藤武先生からご挨拶をいただき、積もり積もった当時のお話を披露していただきました。途中で行われたクイズ大会では、学級ごとに3人ずつ代表者を出してチア、恩師、クラス対抗など思い出を振り返りながら問題に答えていきましたが、どのクラスも見事に答えを一致させ、あまり差が開かないという戦況でした。2次会に137人、3次会55人が参加して夜な夜な続いた同期会。一夜限りの宴の中で英気を養い、それぞれの立場で活躍されることでしょう。

また5年後、10年後に集まれることを楽しみにしております。

（同期会実行委員・小松 由佳 記）

令和元年度
年会費納入のお願い

会員の皆さまには日頃から同窓会活動に深いご理解とご協力を賜り、心より厚くお礼申し上げます。

さて、秋田高校同窓会の運営は、その財政基盤のほとんどを会員の皆さまの年会費に依存しております。円滑な同窓会活動を推進するため、令和元年度の年会費納入にご協力を賜りますようお願い申し上げます。同封の払込取扱用紙で郵便局またはコンビニで納入くださるようお願いいたします。

また財政委員会では現在、会費の口座自動振替を進めています。納入手続きの煩わしさを解消し、〝うっかり忘れ〟を防止するとともに経費節減を図るためです。

口座自動振替をご希望の会員は払込取扱用紙にある金融機関名（秋田銀行、北都銀行、ゆうちょ銀行）を選び、所定の欄にご記入のうえ同窓会事務局にお申し込みください。その際、今年度分の年会費はコンビニではなく、最寄りの郵便局からお振り込みいただくようお願い申し上げます。なお、諸般の事情により、みずほ銀行での口座自動振替の取扱いは中止いたしました。

年会費に関する取り決めは以下のとおりです。

1. 年会費は会員1人当たり2,000円とする。
2. 年会費の請求は単年度のみとし、過年度分は請求しない。
3. 母校卒業後4年間は年会費の納入を免除する。

（財政委員会）

哀悼

謹んでご冥福をお祈り申し上げます

敬称は省略させていただきました

平成27年

4月 大里 誠（昭26）

平成29年

8月 中山 潔（昭41）

7月 東海林岑雄（昭26）
浅原 勝（昭30）

11月 進藤 信吉（昭23）

平成30年

2月 茂木 栄逸（昭29）

3月 赤川 博太（昭30）
信太 康彰（昭42）
加賀谷時雄（昭21）

4月 貴志 忠美（昭26）
小柳 次男（昭37）
鈴木 功（昭36）
斎藤 幸（昭21定）
八柳 斌（昭36通）

5月 河野 真（昭40）
岡部 哲哉（昭26）

6月 三浦 裕（昭30）
今村 剛（昭28）
豊田 武子（昭29）

7月 佐藤 正治（昭30）
太田齊二郎（昭26）
岡野 駿（昭26）

8月 江畑 満義（昭33）
倉西 博之（昭27）
小松 茂正（昭16）
工藤 捷平（昭19）
若江東美男（昭33）

9月 那波 直司（昭26）
後藤喜代美（昭33通）
芳賀 康人（昭33）
田村 紀男（昭34）
加藤 彰真（昭27）

10月 竹中 三郎（昭33）
荒谷 壽夫（昭30）
鷲頭 哲夫（昭36）
樋口 誠一（昭32）
齋藤 順治（昭26）
櫻田 醇（昭27）
鎌田 將喜（昭45）
佐々木素子（昭39）
福士 文友（昭51）
佐々木 正（昭45）

11月 須藤 宏久（昭50）
船木 昇（昭33）
浦川 則男（昭12）
藤原 篤（昭32定）
鈴木 一男（昭24）
山口 尚（昭38）
田口 忠稔（昭36）
前田 司朗（昭38）
加藤 通博（昭20⑤）
保坂 博（昭27定）
星 忠夫（昭19）
小室 忠男（昭31）
根岸 秀治（昭17）
佐藤シヅ子（昭39）
川北 久雄（昭42）
長谷川 昇（昭27）
高橋 光一（昭31）
児玉 邦男（昭21）

12月 浅原 靖（昭32）
岸谷 昇（昭15）
齋藤 茂雄（昭20④）
太田平八郎（昭23）
小松 哲紘（昭39）
石井 憲男（昭41）
長崎 肇（昭33）
小松田堅二（昭28）
安田 光男（昭20⑤）
工藤 昭三（昭20④）
笹原 秀雄（昭23）
小泉 邦夫（昭29）
山下 正明（昭22）

平成31年

1月 畠山 紘志（昭35）
三浦 伸夫（昭33）
秋本 清一（昭23）
石黒 保（昭28定）
蓼沼 良一（昭26）
髙橋 俊雄（昭25定）
川和田 繁（昭31定）
加藤 圭子（昭58）
阿部定三郎（昭22）
加藤 一磨（昭47）
田中 勝三（昭33）

2月 伊東 俊穂（昭26）
加藤 茂（昭28）
小山 智工（平6）
伊藤 禮一（昭27）
竹中 和生（昭33）
小島 初男（昭32）
横谷 壽一（昭23）
伊藤 孝悦（昭25）

3月 鈴木 慶一（昭33定）
千葉 勇輝（平11）
利根川 洋（昭43）
岡部 隆（昭26）
神﨑 泰雄（昭25）
小玉 康延（昭31）
萩野 一作（昭27）
石橋 清次（昭15）
佐々木銀一（昭20④）

㊟（昭20④）は旧制中学を4年で卒業、（昭20⑤）は5年で卒業したことを表す

未来を選択する HIRANOIsm
株式会社 ヒラノイズム
代表取締役社長
平野井 景一
（平成4年卒）

株式会社 ヤマキウ
代表取締役社長
小玉康明
（平成4年卒）
〒010-0011
秋田県秋田市南通亀の町6-46
電話 018-833-5350

140th Anniversary 太平山
小玉醸造株式会社
Kodama Brewing Co.,Ltd
代表取締役社長
小玉真一郎（昭和49年卒）
小玉智之（平成23年卒）
常務取締役営業部長
小玉康明（平成4年卒）
秋田県潟上市飯田川飯塚字飯塚34-1
TEL:018-877-2100 FAX:018-877-2104
www.kodamajozo.co.jp

不動産のことなら信用と誠実の
有限会社 すぐる不動産
（公社）秋田県宅地建物取引業協会会員
常務取締役
木村正之（平成4年卒）
〒010-0918
秋田市泉南一丁目15-25 シンワビル
TEL 018-893-3231
FAX 018-865-1675

知の探究

総合的な学習の時間に行ってきた「知の探究」を平成30年度は大きくリニューアル、生徒たちは年間通じて今まで以上に深い探究活動に取り組んだ。集大成の場として、昨年度の1年生が「グループミニ探究・知の探究ポスター発表会」、同2年生は「佐々木毅(たけし)杯・知の探究コンテスト」を開催した。

研究の醍醐味

3年　石山 真桜

「未来の世界を古典作品から読み取ることはできないだろうか?―。」そう考えたのが私たちの研究の出発点でした。中国は唐の四大奇書の一つである西遊記が持つSF性に着目し、仙桃や筋斗雲など作中の近未来的要素を先端科学技術で説明することによって、物語が示唆する人類の未来を考察しました。

研究を振り返る今、心に残っているのは、グループの仲間と苦楽を共にしながら一つのものを作り上げていく楽しさです。難航したテーマ設定から、集大成となる2月の発表本番まで。次第に窓の外が暗くなっていくコンピュータ室で、経口摂取で効果が得られるならばタンパク質ではないのではないか、空飛ぶ車がもたらす社会変革は具体的に何か、等の議論を重ねた時間こそ、知の探究の醍醐味だったのではないかと思います。

一人一人がそれぞれの持てる力を発揮して協力することの素晴らしさは、メンバー全員忘れることはないでしょう。1年間にわたる知の探究を通し、とても貴重な経験ができました。関わってくださったすべての方々に厚くお礼を申し上げます。

知の探究コンテストで最優秀賞を受賞した『SF孫悟空』の発表

秋田の健康を目指して

2年　嘉藤 麻菜

秋田県にはがん死亡率日本一という問題があります。そこで私たちは、食生活を見直すことで健康寿命を延ばそうと考えました。また、身近でなじみ深い秋田の郷土料理、きりたんぽ鍋を改良することでより興味をもってもらえると考え、探究活動を行いました。私たちはまず伝統的なきりたんぽ鍋を提供するお店で作り方や改良する上でのアドバイスを教えてもらいました。囲炉裏できりたんぽを焼く、貴重な体験もできました。次にきりたんぽ鍋に含まれる栄養素を算出し、足りないものや過剰なものをがん予防や健康の視点から調査しました。味が落ちないようにうまみや風味に注目し、2種類の新しいきりたんぽ鍋を考えました。栄養だけではなく、食べやすさや作りやすさにも重点を置き、実際に調理・試食をしました。鍋ができたときは大きな達成感が得られました。

今回初めて探究活動を行い、自分たちが持つ疑問を仲間と共に追求する楽しさ、手掛かりや答えを見つける難しさを知ることができました。今後も小さな疑問を追い続け、新しい発見をして社会に貢献できるように頑張ります。

ポスター発表部門で最優秀賞に輝いた『NEWきりたんぽ鍋』

石油・LPガス販売
(株)児　玉　商　会
旅客運送業
森岳観光タクシー(有)
代表取締役
児玉 高久(平成4年卒)
〒018-2303
山本郡三種町森岳字町尻50番地5
TEL 0185-83-2201
FAX 0185-83-4863

千秋パーク法律事務所
SENSYU PARK LAW OFFICE
弁護士
藤原美佐子
(平成4年卒)
〒010-0001
秋田県秋田市中通一丁目3番5号
秋田キャッスルホテル ホテルオフィス102号
TEL 050-3816-5846
FAX 050-3730-0656

株式会社トラパンツ
Web & Movie Production Torapants Inc.
代表取締役
長谷川 敦(平成4年卒)
www.torapants.co.jp
秋田本社 〒010-0922 秋田県秋田市旭北栄町1-46
018-883-1909 018-883-1907
岩手オフィス 〒020-0021 岩手県盛岡市中央通1-11-17 3F
019-681-8259 019-681-8269

看板・ネオン・ディスプレイ
株式会社アド秋田
専務取締役
墨谷 誠(平成4年卒)
秋田市外旭川字堂の前8番地8号
TEL018(864)1504・FAX018(865)0158

日本人として

3年　後藤 結花

今年の冬、私は文部科学省の実施する「トビタテ！留学JAPAN」4期生として、オーストラリアの高校に5週間留学しました。私の通った学校は世界75か国から生徒が集まり、休み時間にはさまざまな言語が飛び交う刺激的な環境でした。しかし日本人は私一人。英語だけでコミュニケーションを取るのは簡単ではありませんでしたが、充実した日々を送ることができました。

私が特に苦労したのは平和学の授業です。日本は唯一の被爆国で、平和に対しての意識が高いと思われていますので、さまざまな場面で意見を求められましたが、原爆と平和についてのプレゼンテーションでは、日本の戦争史について何も知らないことを痛感し、悔しい思いをしました。そのため人一倍勉強し、本番では自信をもって自分の考えを伝えることができました。その後、全校集会での平和についてのスピーチを依頼され戸惑いましたが、自分の意見をさらに深めて堂々と話すことができました。

またトビタテ留学JAPANの自主活動として行ったアンケート調査で50人以上から回答を得たことで、海外の日本に対するイメージを知ることができたと同時に、この活動を通してさらに積極性も身に付きました。

この5週間、さまざまな挑戦の機会を得られ、一回りも二回りも成長することができました。これからはこの経験を積極的に発信し、留学への機運を高めていきたいです。

愉快なクラスメイト

平和学の授業でプレゼンテーション

目指せ本選受賞！

3年　佐藤 洸大

数学オリンピック（数オリ）の予選は3時間で12問を解きます。もちろん、全問題を解ける必要はなく、今年度は本選出場ラインが5点、全国の最高点は8点でした。僕にとって6問目から12問目までは全く歯が立たない問題だったので、最初の比較的安易な5問をミスなく取れたのが突破できた要因だと思います。毎年夏に大会に向けた対策講座が秋田大学で開かれますが、それをある程度（完璧でなくても）理解できれば予選突破は可能だと思います。ちなみに、突破した3人のうち、僕と1年生の2人はボート部に所属しています。部活と両立して対策できるのが数オリの魅力です。

本選では4時間粘りましたが、結果は不合格でした。秋田大学の講座で教授もおっしゃっていましたが、本選出場者に対するサポートがより充実していけば、県勢初の本選受賞も可能だと思います。来年は本選受賞を目指して、僕の後輩には頑張ってほしいと思います。

※平成30年度の数学オリンピックにおいて、本校からは45人が予選にエントリーし、3人が本選に進んだ。本選進出は3年連続、複数人の突破は久しぶりであった。

予選を突破した3人。左から1年生の照井禅君、2年生の佐藤洸大君と石川佳希君（学年は受験当時）

株式会社あきた総研
代表取締役 須田 紘彬
（平成16年卒）
〒010-0851 秋田県秋田市手形西谷地86-4-2F
TEL：018-889-2908　FAX：018-889-2909
AKITA CAREER
http://akt-c.com

一般歯科・歯科口腔外科・小児歯科
追分歯科医院
副院長
奈良 宏周
NARA HIRONORI
（平成14年卒）
秋田市金足小泉字潟向3-2
018-873-5661
www.oiwakedc.com
oiwakedc@gmail.com

GTC
ジオテックコンサルタンツ株式会社
建設コンサルタント
〒010-1633 秋田市新屋鳥木町1-74
TEL 018-888-8533/FAX 018-828-3380
菅原崇人（平成14年卒）

秋田高校同窓会だより vol.105
2019年5月25日
AKITA HIGH SCHOOL alumni association news

秋高NOW（ナウ）

伝統を引き継ぎ勝利へ

柔道部

私たちはこれまでの秋田高校柔道部の伝統を引き継ぎ、今年度もインターハイに出場し活躍することを目標に、部員一丸となり日々切磋琢磨しながら稽古に励んでいます。

新チームとなり、目標達成を目指すには、「自立した選手であること」「逆境を乗り越える強い精神力」「体力」の必要性を感じています。そのために部員同士のアドバイスや、稽古の後の一人一人の振り返りを重視しながら、個々の課題を明確にしたうえで、次の練習に生かすことを大切にしています。そして、今何が必要かを問い、必要なトレーニングや稽古内容を自ら考え、妥協することなく実行し積み重ねることで、徐々に目標達成に必要な力が付いてきていると感じています。

試合ではチームの一員として、一人一人が自分の役割を自覚し、冷静に状況を把握し、的確な判断のもとに最後まで粘り強くチャンスをものにする秋田高校らしい伝統の柔道で勝利をつかみ取りにいきます。

日々、私たちを支え応援してくださる先生方をはじめ、OBや保護者の方々への感謝の気持ちを忘れずに、全県制覇・インターハイ出場を果たすため、一生懸命頑張っていきたいです。

〔3年　筒井 惇裕〕

日々鍛錬に励む柔道部員たち

「科学の甲子園」でも活躍

物理部

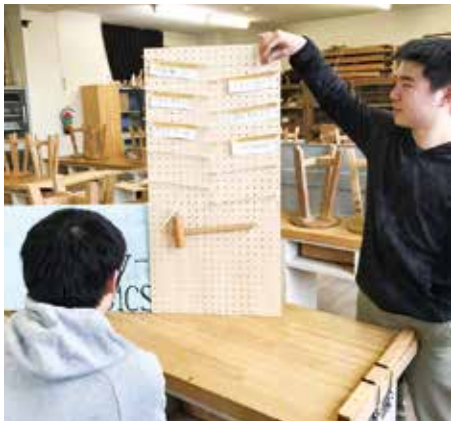
物理部には6人が所属し、和気あいあいとした雰囲気の中で活動しています。普段は木工・電気工作や自然科学の学習を通して物理への理解を深め合う活動を行っています。

物理部としての大きな行事は主に2つあり、その1つが秋高祭です。物理部では秋高祭でピタゴラスイッチなどの作品を制作し展示しています。特にピタゴラスイッチの制作は細かい調整が必要で非常に大変ですが、それゆえに完成させたときは達成感があり、秋高祭に来てくださった方や生徒の皆さんに喜んでもらえるととてもうれしい気持ちになります。

もう1つの行事は「科学の甲子園」です。物理部では自然科学全体に対する知識を深め、より親しめるように、科学の甲子園などの各種大会にも出場しています。昨年度は物理部チームが科学の甲子園秋田県予選で準優勝を果たしました。現在は来る物理チャレンジで奮闘できるように勉学に励んでいます。

物理部の伝統を引き継いでくださった先輩方や物理部として活動できるこの環境に感謝しつつ、物理の楽しさをよりたくさんの人と共有できるよう、部員一同努めていきたいと思います。

〔3年　林崎　由〕


物理実験室でのんびりと活動中

事務局通信

春爛漫、うぐいす坂の桜は今年も満開となりました。

平成30年度も同窓会は活発な活動を展開してきました。9月には会員名簿第41号を発行、企画委員会では教育振興基金の充実を図るため、マフラータオルの頒布に注力、さらに郷土創生特別委員会「学食復活プロジェクト」では、皆さんからの多大なご支援により、ついにこの4月から学食を復活させました。

皆さん、ぜひ食べにいらしてください。

（柏）

編集後記

今号のハイライトは、何といっても10年ぶりに復活した学食である。これで表紙を飾りたい。2ページにも特集記事を載せたい。そして復活まで頑張った諸氏の熱い思いを伝えたい。そんなこんなで4月15日を迎えた▼実は、もう原稿締め切りギリギリの段階。でも待った甲斐があった。昼時にどっと押し寄せ、温かい食事をガツガツ食べる後輩たち。胸が熱くなった。（風来坊）

発行者／秋田県立秋田高等学校同窓会　秋田市手形字中台1番地
電話 018－832－9553　FAX 018－832－9588
印　刷／秋田協同印刷株式会社